

「世界は日本が救う！」

～～～アインシュタイン博士の言葉～～～

下記の言葉が、20世紀最大の発明「相対性理論」をしたアインシュタイン博士が日本に滞在した時、残した言葉です。

1923年11月18日

20世紀最大の天才科学者アインシュタイン博士

近代日本の発展ほど世界を驚かせたものはない。一系の天皇を戴いていることが今日の日本をあらしめたのである。私はこのような尊い国が世界に一ヶ所ぐらいなくてはならないと考えていた。世界の未来は進むだけ進み、その間幾度か争いは繰り返されて、最後の戦いに疲れるときがくる。

その時人類は、まことの平和を求めて、世界的な盟主をあげなければならない。この世界の盟主なるものは、武力や金力ではなく、あらゆる国の歴史を抜きこえた最も古くてまた尊い家柄ではなくてはならぬ。世界の文化はアジアに始まって、アジアに帰る。それにはアジアの高峰、日本に立ち戻らねばならない。我々は神に感謝する。我々に日本という尊い国をつくっておいてくれたことを」

日本人よ！もっと自信を持つべきだ！
天皇制をもっと誇ろうではないでしょうか？

天皇制のあり方について現在、世相では問題になっていますが、2600年もの長い間、受け継がれていた歴史があるのです。

少しだけの議論で、そんなに簡単に変えていいものでしょうか？
受け継いできた我々の祖先に申し訳ないと考えないのでしょうかね。

キリスト教、イスラム教はじめ世界の宗教は一神教ですから、どうしても排他的な考えになります。一方、日本では神道(天皇は神主の大元締め)は、多神教ですから、すべてを受け入れる文化をもっています。

あの儒教の国「韓国」では、国民の8割がキリスト教徒なんだってよ。
皆さん、ご存知でした？だから、排他的になるのかな？

<コメント>

21世紀は「世界は日本が救う！」

・・・もう、そんな現象が起こっている！

中国では、公害が深刻になってます。

中国で一番多い人口の重慶(3000万人)では、大気汚染、水質汚染で奇形児が生まれているそうです。

又、揚子江の水が干上がっていて、上海近郊の海洋では汚染がはげしいから、中国当局でも魚は週に1～2回にちなさいと通達が出ているそうです。怖いですね。

そこで、出番はやはり日本の環境技術です。

「日本は世界の為に！」そして「世界は日本の為に！」

日本人よ！もっと誇りを持とう！そして自信を持とう！